

学びの風便り

リーディングスクール通信 37 R7.1.30

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



特集！学びの改革のあゆみ 田川小学校・波田中学校

田川小学校 ～探究を通して教師もアップデート～

田川小学校の探究的な学びは、「自己肯定感のもてる子」の育成を目的としています。子どもたちが、自分の興味関心や疑問をもとに、課題を見つけて解決する喜びを体験することで、学びへの意欲を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を育むことを目指しています。

これまでの取り組み：子どもたちの「やりたい」に思いを寄せる先生方



この一年間探究的な学びを大切にしてきた田川小学校では、子どもたちだけでなく、先生方自身のあり方も変わってきました。子どもたちの「やりたい」という気持ちを尊重し、共に考え、寄り添う伴走者としての役割を認識するようになってきています。

例えば、4年生の総合的な学習の時間では、子どもたちの「やりたい」をベースに授業づくりを進めました。その結果、活動が多岐に渡り、先生一人では対応できない場面もありましたが、学年合同の総合的な学習の時間を設定するなど、柔軟に対応することで、子どもたちの主体的な学びを支援しました。また、1年生の生活科では、子どもたちの泥んこ遊びから発展した大根の栽培を通して、子どもたちの疑問や思いに寄り添いながら、共に学びを深めていくことができました。さらに、特別支援教育においては、校外学習の計画や実施を通して、子どもたちの行動を注意深く観察し、その背後にある思いや意図を理解しようと努めました。

このように、先生方は、子どもたちの主体的な学びを支援するために、様々な場面で、その「やりたい」という気持ちに寄り添い、共に考え、子どもの行動の意味を理解しようと努めました。

さらに、子どもたちの探究心を育む新たな取り組みにも挑戦しました。先生自らが地域を探索し、地域素材を教材化することで、子どもたちの探究心を刺激しました。4年生の総合的な学習の時間の立ち上げでは、地域素材を教材化するために、先生方が探究活動を行い、7月24日には、研究グループごとでアウトプットするという一つのゴールを作って活動しました。また、授業公開に向けて、チューニングを実施することで、先生方同士が授業について深く話し合い、子どもたちの可能性を広げる授業づくりを行いました。チューニングでは、単元の設計段階や進行中に、建設的なフィードバックや担任が考えつかなかったアイデアを得たり、想定していなかった問題点に気づいたりすることができました。



これらの実践を通して、先生方は、子どもたちの主体的な学びを支援するだけでなく、自らも学び続ける姿勢を育むことができました。

【今後に向けて】

2月には、参観日をアウトプットの場として、子どもたちの学びの成果を、全学年保護者へ発信します。さらに、次年度は、地域社会への発信も視野に入れ、子どもたちの自己肯定感を高める活動へと発展させていきたいと考えています。2年間パイオニア校として育まれてきた子どもたちと先生方の探究マインドで、来年度も田川小学校はシンカし続けます。

波田中学校 「明日も行きたくなる学校」を目指して



パイオニア校2年目を迎え「明日も行きたくなる学校」を目指し、『全員が主役の学校』を生徒と共に創る」を合言葉に取組んでいる波田中学校。特に「授業の充実」「小中連携」に焦点をあて実践を進めています。

小中連携の充実！ ～小中交流授業参観の実施～

今年度、「全員が主役の学校」を創ることためにも、入学してくる子どもたちの理解を深め、小中連携をさらに充実させようと、小中学校の先生方が空き時間などを利用して、お互い授業を観る機会を設けました。小学生での生活を知ることにより「中1ギャップの解消」の一助になるとも考えています。期間中（4日間）に1回は授業を観にいこうと「自分が行ける時間にいつ行ってもよい」と自由度をもたせて実施しました。波田中の先生方からは次のような声が寄せられています。

- ・小学校では、6年生では自由進度学習、1年生では体を動かしながら友と協働した国語の学習などなど、学び方をチャレンジされていて、素晴らしいなと思いました。
- ・小学校の先生方の授業の様子も、今回初めて拝見し、子どもたちと一緒に丁寧に学んでいる様子が見ることができました。…また来年度もこのような機会を設けていただければと思います。
- ・小学校3年生の算数を参観させていただきました。個別最適な学び・インクルーシブ教育・学びあいなどすべてを含む素晴らしい授業を観させていただきました。…正直、空きコマさえあれば1週間くらい毎日見にいきます。

先生方の中には、小学校でタブレットを自然に活用していることに驚き、「中学校でもさらに活用を進めていく必要があるのではないか、小中連携でICTをテーマに共同で研修する機会を設定したらどうか」などと課題に気づき、今後の実践に生かそうとする姿も見られました。

自分を大切にしよう！～ライフスキルアップ授業～

1年生では、「自己肯定感を高め、自分を大切にする考え方」を醸成したいと願い、昨年度から信州大学の高橋史先生のご協力を得て、ライフスキルアップ授業（全6時間）を実施しています。生徒が自分のよさを知り、自己肯定感を高め自分に自信をもつことが「全員が主役の学校」へと誘う原動力になるのではないかと考えています。授業後の生徒たちの声を紹介します。

ライフスキルアップ授業を通して、学習したことが役だったり、ヒントになったりしたと思いますか。



- ・これから社会に出ていって自分のメンタルがやられそうな時、今回習ったことを生かしていきたいです。
- ・自分自身を大切にしていこうと思えるようになった。これから習ったことをやっていこうと思う。
- ・自分の心を落ち着かせるような、リラックス方法などを学べてよかった。
- ・嫌だな、苦しいな、悲しいなっていう気持ちがでてきたらいったん気持ちを整理して、落ち着いたりすることが大切だとわかりました。

SNSの発達などで、思わぬことから自分の尊厳が傷つけられてしまいやすい現代。授業を通して、多感な時期の生徒たちが、自分を大切にするスキルを身につけていく重要性を改めて感じました。

授業の充実！ ～先生方の意欲的なチャレンジ～

2学期、自ら授業公開をする先生方が大勢いました。自主的に授業を開き学ぼうとする先生方の姿を、研究主任の藤原先生が研究通信「PLUS ONE」で「突撃！先生の授業を見せてください」コーナー等を設けて詳細に紹介しています（1/15 現在 NO36）。通信には実際の授業の様子などと共に、「学習課題の捉え方」



「教材研究の工夫」「授業者から学ぶ生徒が夢中になって取組む授業づくりのヒント」などをのせ、学ぼうとする授業者の背中を後押し、授業を参観できなかった先生方にも授業から共有したい学びを伝えています。藤原先生は、波田中の先生たちの様子について、次のように話されます。

123 授業に活かす「1つの心」～学習課題の捉え方～
下の写真は、授業中の様子です。ビデオカメラで撮影した授業の様子を、3つの視点から撮影しています。このように、授業を多角的に撮影して授業した人を見ることが出来ます。どの授業でも、この学習課題と学習課題の捉え方が、50分の授業を90分上げていくのに効果的でした。



124 教材研究の紹介
石の授業は、色々な人と呼ばれる、人の習性を持ったものです。これを使い、生徒はビデオカメラのレンズを通して、授業の様子を自分の目で見て、学ぶことが出来ます。授業の様子を自分の目で見て、学ぶことが出来ます。授業の様子を自分の目で見て、学ぶことが出来ます。



「研究通信で自分の授業を取り上げてくれてモチベーションが上がりました。これからもぜひ通信を続けてください」という先生方の声に支えられながら書いています。ベテランの先生方の授業の様子を紹介したら、若手の先生方から「ベテランの先生の授業からもっと学びたい。もっと紹介してください」という声がありました。お互いのよさを知り「もっと学びたい・チャレンジしたい」と思っている先生方が多く、有難いなと思います。この雰囲気さらに広がるよう先生方と話し、授業改善の成果を発信していきたいです。

自ら授業を開く先生方の主体的な挑戦は、授業づくりへの「探究」そのものであり、「全員が主役の学校」へとつながることを信じて、日々授業改善にチャレンジし続ける波田中の先生方です。